

軽井沢の追分宿、いまや文化磁場《油や》

長野県軽井沢町の最西端で隣の御代田町との境に位置しているのが、旧中山道の宿場町「追分」である。その名は、かつての中山道と北国街道との合流と分岐の地であるが、この借宿から南へ和らぎのなごりを知ると、暮らしたことに誇りと愛着が深まり「エッセイ」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。全国ふるさと大使連絡会議「理事」

「追分」とされた。中山道は、江戸の日本橋を起点に、板橋、高崎を経て、横川関所を通り、軽井沢、沓掛、追分に着く。その先は岩村田、下諏訪、塩尻、福島、上松、馬籠をへるため多くの女性達が通行した。北国街道は、追分から小諸、上田、坂木、善光寺を通り、越後に向かう。こうして、いずれも「追分」を宿場として、江戸や京都とつながっていた。まさに、人や事物、そして文化や賑わいの交差点であった。

地域の支援受ける「文化磁場」活動

この辺り10km程度の範囲には「追分沓掛、軽井沢」の「浅間三宿」があった。軽井沢宿は碓氷峠という難所があり、大名や公家専用の本陣のほか脇本陣が4軒もあったという。沓掛宿は本陣のほか脇本陣が3軒であったという。こも草津温泉に向かう分岐路があったが、追分とは呼ばれない。追分宿は本陣と2軒の脇本陣があったという

この辺り10km程度の範囲には「追分沓掛、軽井沢」の「浅間三宿」があった。軽井沢宿は碓氷峠という難所があり、大名や公家専用の本陣のほか脇本陣が4軒もあったという。沓掛宿は本陣のほか脇本陣が3軒であったという。こも草津温泉に向かう分岐路があったが、追分とは呼ばれない。追分宿は本陣と2軒の脇本陣があったという

1950年山形生まれ。東京都立大院卒。元千葉大学院工学研究科准教授（金属疲労専攻）。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。全国ふるさと大使連絡会議「理事」

地元力発見！！

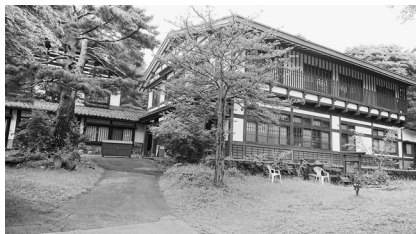
32

佐藤建吉 「洗楓座」代表

「油や」がある。以前は、「油屋」の名称であったが、観光の街おこし活動の一環で「油や」となった。なるほど上品さが加わった感じがする。それはちょうど10年前からの「油やプロジェクト」で、歴史的資産の「油屋」を継承し、地域と一体となり保全し有効活用していくNPO活動であるという。NPO名もスバリ、「油やプロジェクト」としている。長年、家との所縁を活かして改装され、屋外のグリーンでも古本市やバザーが行われるので、筆者も2、3度訪ねたことがある。近くには、堀田辰雄記念館や古書館もある。さらに古物店や追分宿郷土館もあり確かに磁力が強い。旧軽井沢とは違う趣の観光や滞在ができる



文化磁場<油や>



アプローチとギャラリー外観と庭(一部)



「油や回廊」(本館)入口

追分宿郷土館もあり確かに磁力が強い。旧軽井沢とは違う趣の観光や滞在ができる